

指導事例4

1 主題名 人間の気高さ

2 資料名 「遠く海を見つめて（ああ、須田訓導）」

3 ねらい 人間としての誇りを持ち、自分の仕事や役割を誠実にやり、生きる喜びを見い出していることとする態度を養う。 (3-(3) 人間の弱さの克服, 人間の気高さ, 生きる喜び)

4 主題について

(1) 価値について

人間社会の中で、人間は他の人々と関係なしに生きてはいけない。人間は他の人々とかかわりを持ち、互いに人間として、深い相互理解や触れ合いを大切に、充実した人生を送りたいと願うものである。そのために、様々な誘惑に負けたり、易きに流れたりするとき、だれもが悩み、苦しみ、良心の責めと戦いながら、自分の存在を深く意識するようになる。そして、人間として生きることへの喜びや人間の行為の美しさに気付いたとき、人間は強く、また気高い存在になりうる。そこから、人を思いやり愛する心が生まれてくる。

(2) 生徒の実態

中学生はその成長とともに、自分という存在を強く意識する時期である。時には他人の気持ちを顧みず、自己中心的な発言や行動も見受けられる。これは、人間のもつ弱さや醜さにもつながろう。また、一方では、崇高な人生を送りたいという人間のもつ気高さを追い求める心もある。

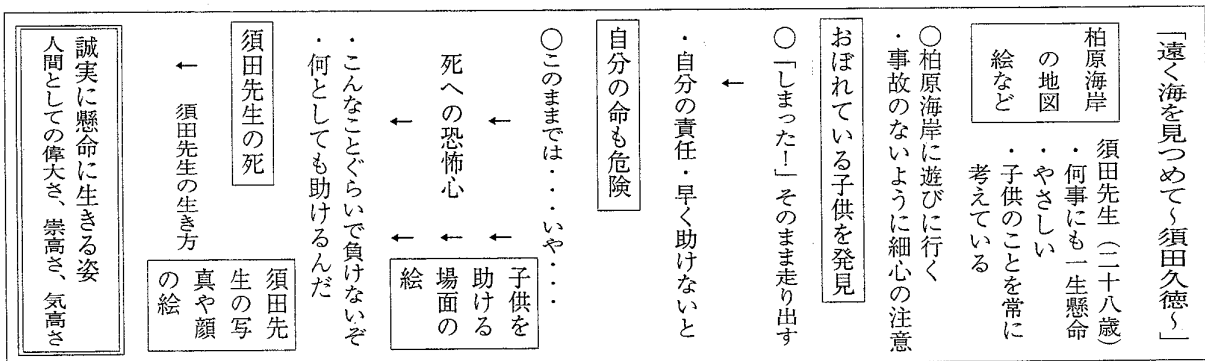
したがって、人はだれでも人間らしいよさをもっていることを認めるとともに、決して人間に絶望することなく、だれに対してもその人間としてのよさを見い出していく態度を育てることが大切である。

(3) 資料について

本資料は、東申良町の柏原小学校の教師であった須田久徳先生が、海で溺れた教え子を命をなげうって救ったという感動的な実話である。須田久徳先生は、1909年（明治42年）に、肝属郡東申良町唐仁に生まれた。1932年（昭和7年）に鹿児島第一師範学校を卒業して、しばらくの間軍隊にいた後、申良小学校の先生になり、1937年（昭和12年）4月に、母校の柏原小学校に赴任する。そして1937年（昭和12年）の6月、溺れた教え子を救うために柏原海岸で死去した。

この須田久徳先生の教え子に対する愛情の深さ、さらに溺れた子供に気付いたときのその行為は、人間の偉大さ、気高さの極致を示し、強く胸を衝くものがある。

5 板書例



6 参考文献

「かごしまの心」鹿児島県資料研究会編
 柏原尋常高等小学校須田訓導追悼文集「噫須田先生」
 道を教うる気高さは ただことのはの上のみか
 兎らがためには命さえ 捨てて誠を示しけり

7 展開例（2時間扱いにすることも可）

過程	主な学習活動（・生徒の意識）	指導上の留意点
導入	1 柏原海岸と須田久徳について関心を高める。 ○ 地図や写真などを見て、柏原海岸の様子について知る。 ○ 「噫須田先生」の歌の一節から、須田先生の人物像をイメージする。	○ 地図で場所を確認させたり、海岸の写真を提示したりして意欲を高めさせる。 ○ 歌の一節を読ませ、須田先生に対する印象を持たせる。内容については深入りしない。
展開	2 資料「遠く海を見つめて（ああ須田訓導）」を読んで話し合う。 (1) おぼれている子供を見つけた須田先生が「しまった!」と叫び、そのまま走り出したのは、どんな気持ちからだろう。 ・ 溺れさせないように監視をしていたのに。 ・ 溺れさせてしまったという責任から。 ・ 早く助けなければ。 (2) 自分の命までもが危険であるのに、あきらめかけた気持ちを断ち切り再び救助に向かったのは、どんな気持ちからだろう。 ・ 何としても助けたい。 ・ 人間はそう簡単に死ぬもんじゃない。 ・ こんなことぐらいで負けてなるか。 ・ 溺れている教え子を放ってはおけない。 (3) 須田先生の遺影を見て、一同が心を打たれたのは、どうしてだろう。その後、歌や銅像が作られたことから考えてみよう。 ・ 教え子を救ったその強い責任感に感動したから。 ・ 満足したような表情から、人間の偉大さ、誇り、崇高さ、気高さを深く感じたから ・ 人間としてのすばらしさを感じたから ・ 人間としての誠実さを感じたから	○ 資料の内容に十分ひたらせたり、時代背景については、補足説明したりする。 ○ とっさの行動であるが、自分の責任を果たそうとする気持ち、何よりも子供を助けようとする気持ちが強いことを感じ取らせる。 ○ 救助に行くときは、恐怖心もあったことも考えさせる。 ○ 自己犠牲を賛美することにならないように配慮する。 ○ 須田先生の心の中にも、葛藤があったことをとらえさせ、そこから人間としての生き方へと考えを広げていく。 ○ 人間としての誇りや深い人間愛、崇高な人生を目指し、同じ人間としてともに生きていくことへの喜びや人間の行為の美しさに気付かせる。 ○ 須田先生の生き方を通して、人間の気高さについて考えさせる。
終末	3 本時の学習を通して、自己を再度見つめ直して感じたことをまとめる。 4 教師の説話や類似の話等を聞く。	○ 静かに自分の生活を省みながら書くようにし、単なる反省とにならないようにする。そのために、十分に時間をとって考えさせる。 ○ 教師自身の経験や類似の話等を紹介し、意欲を高める。